

おく がい し せき
屋外史跡①

つち せいひん
—土の製品—



● 硝酸容器

太平洋戦争中、日本がドイツからロケット爆弾の製造技術を導入するため、その材料になる硝酸を入れるための耐酸つぼ。海軍の発注で、常滑市内の各窯元でたくさん焼かれたものの一つ。

● 陶製トイレ

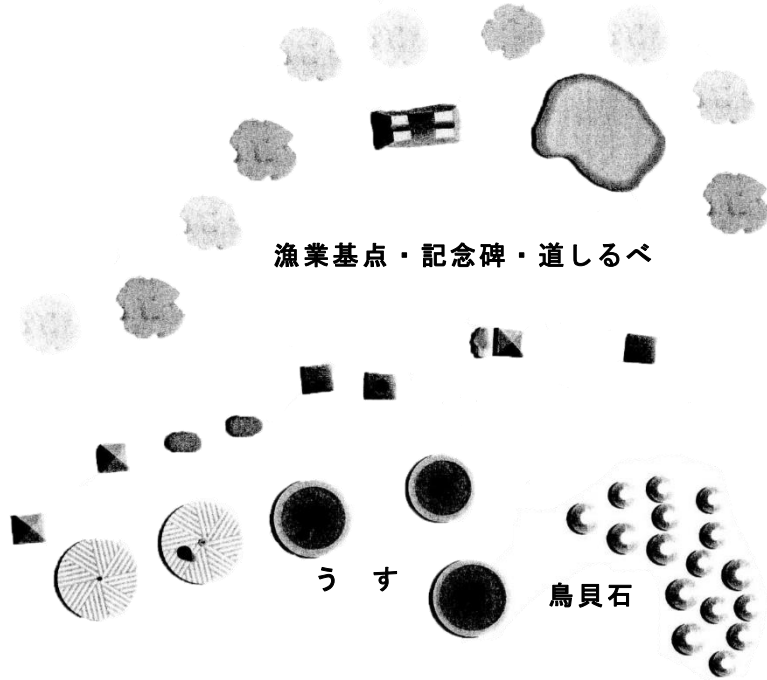
屋外用の公衆トイレ。地中に埋めた肥だめがめの上にこのトイレを置き、前かがみになりながら使用した。知多市新舞子にあった知多土管(株)が明治末期に作ったもので、八社神社(知多市金沢)の境内にあったもの。このような陶製のトイレは、明治中期頃から、常滑市から知多市にかけての窯元の登り窯で焼かれ、昭和初期まで神社や寺、集会場などの人の集まる所に置かれていたという。

● 防火用水

防火用の水槽。市内のお宅で使われていたもので、昭和3年頃に家を建てたときに伴って玄関の横に据えた。底部をレンガやセメントで固定し、家の雨どいからたれる雨水を貯めておいた。戦争中には、こうした防火用水槽はなくてはならないものだった。

おく がい し せき
屋外史跡②

いし せいひん
—石の製品—



漁業基点・記念碑・道しるべ

うす

鳥貝石

● ぎょぎょうきてん
漁業基点

しんち ぎょぎょうくみあい の りょうしょく のために かくぎょぎょう
免許を受けたのに 伴って 立てられた 石柱。

● きねんひ
記念碑

きょういくちやくご めいじ ねん がつ にち ほうぶ
教育勅語(明治23年10月30日發布)30
周年を記念して 植樹したときのもの。

● みちしるべ
道しるべ

みちい ひと のために、ろぼう たてて ほうかく りてい
を示して、まよわないようにした 目印。新四国
参りの分岐に 立てたものや、地蔵の両側に 道
しるべを 伴った 辻地蔵などがある。

● とりかいし
鳥貝石

ぎょぐ とりかいし りょうわき おも
漁具(鳥貝まんが)の両脇につけた 重りの石。

● うす
搗臼と挽臼

つきうす ひきうす ひきうす こくもつ こな どうぐ
搗臼と挽臼。挽臼は穀物などを粉にする 道具。
うわうす したうす な たが せつしよく
上臼と下臼から成っており、互いが接触する
面に 細かい溝が 刻まれている。

区劃漁業免許第三四三号漁場基点

勅語御下賜三十年記念樹

弘法大師道

